

Izayoi String Quartet

十六夜弦楽四重奏団

The 8th Regular Concert

バルトーク 弦楽四重奏曲 第1番

Béla Bartók, String Quartet No. 1, op. 7 (Sz. 40)

ベートーヴェン 弦楽四重奏曲 第14番

Ludwig van Beethoven, String Quartet No. 14 in C# minor, op. 131

2018年 3月 21日(祝) 14:00 開演(13:30 開場)

入場無料

未就学児のご入場はご遠慮ください。
携帯電話の電源はお切りください。
写真撮影等他のお客様の御迷惑になりますので
ご遠慮ください。



十六夜弦楽四重奏団

今までもそうだったけれども、いつも何より楽しいのが練習。その中で必ず毎回出て来る場面がある。隣で弾く私に一井さんの表情が「いつもの通り、だけど口にはしないよ」と言っている。「あ、『P』やね」と私。この『P』（ピアノ）と楽譜に記されている記号、十六夜クアルテットでは「最も表情豊かに」と解す。より細やかな彩りの変化、音色の肌触り、かぐわしい香りを感じる和声、浮遊感、ひそやかな命、見えない（聴こえない）存在…。それらはいつも新しい世界の始まりなのです。さて、本番はどんな表情がお隣から翔んでくるのかな…。

一井 宏磯 1st Violin

刻々の死から我々は生を享受する。音楽の楽しみは表層であり、本質は刻々の死。思考に囚われることは楽譜に囚われることと同じだが、音楽に私が見いだすのは、理想の追求や美の再現ではなく、達成感、承認要求でもない。それはあるがままの真実が私たちの心に共鳴する。すべてのイメージが偽りである事を見取り、いつさいの概念を放棄するところに、真の創造があり、生まれ変わりは、そこにある。それは全ての人間の悲しみを共有し解放する瞬間であり、美の運動である。それは Compassion(慈悲心、共感、哀れみ)であり、すなわち Passion(情熱、苦悩)を共にする心。

糸井 佐知子 2nd Violin

え、バルトーク？ バルトーク！！う〜んバルトーク。練習が始まるまでは、彼が私に何を語ってくれるのか、ちっとも想像できない。私が音楽の中で何を感じるのかちっとも予測できない。

だからこそ練習が楽しみ。
どうか私の分かる言葉で語ってください。いや、分からないことは分からないままに…

吉川 昌毅 Viola

知らない土地で、地図と勘を頼りにクルマを走らせるときの、あの感じ。
迷い込んだ旧街道沿いに古い家並みを見つけたり、薄暗い山道の先に苔むしたレンガ積みみのトンネルが口を開けていたり、牧場の中の真っ直ぐな道の向こうの低い山並みから白い雲がもくもく湧き出したり、行き着いた崖の上から夕陽を浴びる入江が見えたり。
次のカーブを曲がったら、今度はどんな風景に出会えるだろう？
クアルテットにはいつも、そんなワクワクがある。

久々津 邦子 Violoncello

私が初めて弦楽器をナマで聴いたのは、中学の芸術鑑賞会でした。今思えば、どうしてあんな岐阜の田舎に来てくれたのか分かりませんが、体育館で名フィルの弦楽器奏者の方達が演奏してくださいました。どの曲も素晴らしかったのですが、特に芥川也寸志の「トリプティック」は衝撃的でした。その頃は私も、中学生らしく、歌謡曲や洋楽もたくさん聴いていたのですが、弦楽アンサンブルのカッコよさにゾクゾクしました。その時は、まさか自分がチェロを弾くことになるとは思っていませんでしたが、今はカルテットに混ぜてもらったりして、とても楽しいです。これからもずっと続けます。

主催、お問い合わせ：十六夜弦楽四重奏団

糸井佐知子 Tel.: 075-467-4329

イチイヒロキヴァイオリンショップ(株) <http://violinshop.co.jp>

会場：カトリック衣笠教会

西大路通北大路南西角

北大路通

西大路通